

平成30年12月20日

各 学 校 長 様  
支援教育関係者 様

大阪府支援教育研究会  
会 長 波 田 仁 宏  
(堺市立家原寺小学校校長)

## 冬季研修会のご案内 (二次案内)

寒冷の候、先生方におかれましては、ご活躍のことと存じます。  
大阪府支援教育研究会主催で、以下の要項で冬季研修会を実施いたします。  
ふるってご参加くださいますようお願いいたします。

記

- (1) 日 時 平成31年(2019年) 2月2日(土)  
午前の部 10時30分～12時30分 (10時10分 受付開始)  
午後の部 14時～16時 (13時40分 受付開始)
- (2) 場 所 たかつガーデン  
大阪市天王寺区東高津町7-11

(3) 内 容

### 午前の部(午前10時30分～12時30分)

#### A「幸せに生きるための性教育」高等部卒業後の学びの場「ぼぼろスクエア」

千住 真理子先生(ポポロスクウェア)

自分が性教育を受けていないので、どうやって教えるのか?生徒が落ち着いていたので、「まあいいか」と逃げていた私です。でも支援学校に転勤し、彼らの性行動に切羽詰まって恐る恐るはじめた性教育。熱心に学ぶ子どもたちに、こんなに知りたかったのだと、私が虜になりました。性教育を受けたことのない先生、もっと深めたい先生、寄っといで～。子どもたちの心をつかむ性教育、落ち着いている子どもたちも知りたいのです。性について何も知らずに今の社会には出せません。自分のことを大切にしてほしい、幸せになってほしい、そのための学びです。性教育は年齢にふさわしい学びがあり、何度も繰り返して学ぶことで自分のものとなっていきます。ぜひ、子どもたちに性教育を!

#### B支援学校、支援学級における自立活動の実際～新学習指導要領にも対応できる取り組み～

早野眞美先生(大阪府立箕面支援学校校長)、大阪府立箕面支援学校コーディネーター  
チーム(植野耕司先生・佐藤学先生・平山雄大先生)

支援学級、支援学校では教科の指導と自立活動の指導が大切です。自立活動の指導では、より個のニーズに応えられることが求められます。その方策は全ての児童生徒にとっても学びやすく、大阪府の支援教育が目指す「ともに学ぶ」にもつながっていきます。

今回は、箕面支援学校のコーディネーターチームが地域支援、校内支援を通して学び、研鑽したことを参加者の皆さんと共有し、新学習指導要領にも対応できるような、自立活動の実際を皆さんと一緒に考えたいと思います。事例、授業実践を通してお話をさせていただくので、実際の指導場面で取り入れていただける内容もあるかと思っています。一緒に学びましょう。

### C 「チーム国府の取り組み～ビジョントレーニングやコグトレを取り入れて～」

研究部 徳永 清恵先生、水上 涼太先生、岸本 沙織先生（和泉市立国府小学校）

国府小学校の支援学級は10クラス、通級指導教室も60名以上が通う。多様なニーズに寄り添えるよう、様々な取り組みを行っている。中でも「ビジョントレーニング」と「コグトレ」は自立活動として広く実施している。今回は、それらの指導の実際について、具体的に事例を交えてお伝えしたい。

まず、「ビジョントレーニング」の実施方法を伝える。子どもたちの実態は一人一人違う。それぞれのニーズをつかみ、できるだけ本人の弱さに合った効果的な指導法を探り、早期改善を目指す。「目の動き」「空間認識」等、実際の指導法を紹介する。

次に「コグトレ」について伝える。コグトレの考えは広く、COGET、COGOT、COGST を対象児童との関わりを通じて伝える。学習、運動、社会性のどの場面に重点を置き、さらにどのように関連づけて取り組んでいるかを紹介したい。

まだまだ実践は道半ばではあるが、子どもたちの変容や効果を少しでもお伝えすることができればと思う。

### 午後の部（午後2時～4時）

### D 「自閉症の子どもの実態把握と検査資料の理解について～支援は子どもをみつめることから～」

富田 淳先生（東住吉支援学校）

子どもへの対応を考えるときに大切なことは、一人ひとりをしっかりと見つめることです。その子どもの得意なことや苦手なこと、学習のつまずきの様子や日々の行動の特徴的なパターンを把握することによって、対応を考えるための様々なヒントが得られます。

前半は、自閉症の生徒を対象とした行動観察の内容と、その結果を活用した対応の例を紹介します。後半では、子どもの実態把握に関連するいくつかの検査の概要を紹介するとともに、検査結果の理解と活用について考えます。対応の難しい自閉症の子どもを中心に、実態把握の方法について事例を通して紹介します。また、客観的な資料として見ることのある検査に関する、用語や代表的な検査の概要を説明し、それらの理解に少しでも近づく材料を提供したいと思います。

### E 「愛着に課題のある子どもへの理解と支援」

西原 弘先生（和歌山信愛女子短期大学准教授）

愛着に課題がある子どもは、対人・社会的能力に躓きを抱え、発達障がい様の行動を見せる事が知られている。そのため発達障がいとの鑑別が難しく、本来は愛着課題が問題の背景要因であるにもかかわらず発達障がいの問題として扱われ、結果として支援の効果が見られないケースもある。一方で発達障がいのある子どもも、その育てにくさから、虐待により他者と愛着を形成する上で大きな障害を負い、様々な問題を抱えている事が多い。愛着に課題のある子どもの理解を深め、どう支援していくべきかについて考えていきましょう。

### F 通常の学級における指導～多層指導モデルMIMの実践・演習～

栗原 光世先生（西東京市立住吉小学校）

通常の学級における異なる学力層の子供たち一人一人のニーズに応える「多層指導モデル(MIM)」についてお話しします。特に「読みのつまずき」に着目したアセスメントと模擬授業の体験を通して「アセスメントと指導」の両輪を大事にするMIMを知っていただければ幸いです。「言葉」は日常的に使うものであるため、「いずれ読めるだろう、書けるだろう」と定着が十分でないままに過ぎてしまうことや、誤りが見られてもどのように指導すべきなのか迷うことがあります。本講座では具体的な教材を使いながら、読みのつまずきに顕著に

見られる特殊音節の指導を演習も踏まえて行います。「子どもにとって分かる授業」のヒントになることを願っています。

#### (4) 申し込み方法

「こくちーず PRO」のHP [www.kokuchpro.com](http://www.kokuchpro.com) から「大阪府支援教育研究会」で検索していただき、「大阪府支援教育研究会 冬季研修（募集中）」より、申し込みください。

または、下の2次元バーコードを読み込みアクセスください。



※ お申し込みは、お一人様最大、午前1講座、午後1講座の計2講座です。

**お名前、所属校、参加希望講座、連絡先**を必ず明記してください。

☆「こくちーず」から申し込みされましたら、入力されたアドレスに自動的に返信メールを送信します。まだ定員に達していない場合、「残り〇名」と表示されます。もし、定員超過の場合等、部屋の定員から、当日に来られてもお断りする場合がございます。

連絡は、申し込みされたアドレスに送らせていただきますので、返信メールの受信が可能かどうか、ご確認ください。学校のPCや携帯・スマホなどから申し込まれた場合に、返信メールが届かない事例がありました。

☆ もし、申し込み後、返信メールがない場合には、申し訳ありませんが、お問い合わせください。

(5) 問い合わせ先 大阪府支援教育研究会 書記（研修部担当）辻岡 均

大阪府立大阪北視覚支援学校 TEL 06-6328-7000

FAX 06-6328-5896

メールアドレス T-TsujiokaH@medu.pref.osaka.jp